参考資料１

国立・国定公園指定における風景評価の変化・多様化

- 名所・旧跡・伝統的な探勝地（古くから民衆に親しまれてきた風景）
- 山岳など原始性の高い自然の大風景（明治・大正の文化人や外国人が発見した風景）
- 居住地に近接した野外レクリエーション適地
- 海蝕崖・リアス式海岸等の海の風景
- 自然性の高い生態系の景観
- サンゴなどの海中景観
- 野生生物の生息地としての景観
- 広大な湿原景観
- 里地里山景観
- 公園の分割による効果的な管理
- 干潟等新たな海の景観

大正4（1915）

大正10年　内務省の国立公園候補地調査開始

昭和元(1926)

昭和６年 国立公園ノ選定ニ関スル方針 それぞれの風景型式(主として地形)のNo1が国立公園

昭和9年　瀬戸内海、雲仙、霧島、大雪山、阿寒、日光、中部山岳、阿蘇

昭和10(1935)

昭和11年　十和田、富士箱根、吉野熊野、大山

国民の運動、鍛錬厚生の場としての国立公園候補地選定
道南、三国山脈、奥秩父、琵琶湖など

昭和20(1945)

伊勢志摩国立公園指定

昭和24年　法改正により「準ずる地域」を追加
昭和24～25年　支笏洞爺、上信越高原、秩父多摩、磐梯朝日国立公園指定

昭和27年 自然公園選定要領 地形を重視した風景型式区分

19カ所の国立・国定候補地中15カ所が海の公園

昭和30(1955)

昭和32年　自然公園法施行
昭和33～34年　三河湾、金剛生駒、南房総、水郷国定公園指定

昭和39年　南アルプス、知床国立公園指定

昭和40(1965)

昭和42～45年　高尾、愛知高原、天竜奥三河、等の国定公園指定

昭和45年　海中公園制度創設
昭和46年　環境庁発足　自然公園選定要領改正　景観要素に野生動物等追加
昭和47年　西表、小笠原、足摺宇和海、利尻礼文サロベツ国立公園指定
昭和48年　自然環境保全法施行
～50年　越後三山只見、奄美群島国定公園指定

昭和50(1975)

昭和56～57年　日高山脈襟裳、早池峰、九州中央山地国定公園指定

昭和60(1985)

昭和62年　釧路湿原国立公園指定

平成元(1989)

平成2年　暑寒別天売焼尻国定公園指定

平成7（1995）

平成14年　自然公園法改正（「生物多様性の保全を旨」とする規定追加）

平成17(2005)

平成19年　尾瀬国立公園、丹後天橋立大江山国定公園指定
西表石垣国立公園拡張
平成21年　自然公園法改正（「生物多様性の保全に寄与する」を目的に規定）

平成22(2010)